

10. 自然現象

10-3-2. 方位・位置に関する表現

川の上流に当たる西の方をエペライ eperay、東の方をエバシ epasi、北の方がエラシ erasi、南の方をエマカシ emakasi という。

[上野サダ氏]

10-4-1. コタンの概況

昭和のはじめの頃、伏古コタンには、アイヌの人達の家が40何軒かあった。今は、伏古だけではなく方々から集まっているので現在はこのコタン生まれの人は少なくなった。だが、子供の頃はもともとコタン出身の人達だけが伏古コタンに住んでいて40数軒の家があった。その中にはもちろん嫁さんがここ出身で旦那がよそのコタン出身の人も相当いた。

家は、一軒一軒がくっついていない。家は、離れてばらばらにあった。

現在学校のある高台は、昔から家が混んでいた。この辺には、泉さんと、古川さんと、うちら（上野家）と、田辺さんとがあった。川よりの一番端には、（北から南に向かって）山本サクタロウさん、泉ヨシオさん、泉シズさん（泉ヨシオさんの親）、山下のじいさんとばあさん、田辺さん、その東側に古川ナオゾウさん、田辺さんの家の南側に、うちの上野テツ、さらにその南側にまごばあさん（上野タケ）の家があった。

田辺のばあさんと古川のじいさんがキョウダイで、古川のじいさんと山本サクタロウさんとが男兄弟で、山本のおばがうちの母親（タケ）の妹。

まごばあちゃんはまごじいちゃんと住んでいた。昭和18年にまごばあさんが亡くなった。10歳の頃に新しい家を建てた。まごばあさんは、カムイノミするから自分の家を持ちたい、新しい家ではなく、昔の形の家に住みたいと昔ながらの草葺きの新しく家を建てて一人で住んだ。年寄りが遊びに来るからと遠慮したせいもあって一人で住むことにした。チロット cirotto からも遊びにきた。山川さん（山川力）のまごばあさんも洩根さんのばあさんも一人で住んでいました。洩根二郎さんの親と山川力さんの母親がキョウダイになる。上野留吉と山川力（大正のじい）は、親戚ではないけれどイトクパ itokpa も同じなのでカムイノミには喪主になってやった。上野タケさんと山川のじいさんがまた従兄弟になる（上野タケの母親と山川の父がキョウダイになる。実際には、また従兄弟ではなく従兄弟になる）。

16条に行って、太田さんに、サカイさん、また別な所に三浦サイタロウさんにフナカワさん（三浦ノブさん）。鉄南には、原田さんのばあちゃんと佐々木リョウサクさんがいた。三浦サイタロウさんの弟の沼田ダイサクさんが隣に住んでいた。

[上野サダ氏]

10-4-4. 地理・地名

日高の襟裳岬はエルム erumu 「ネズミ」の意味だ。噴火湾沿いの火山が爆発したときたくさんのおねずみが岬に流れてきたそうだ。

国後で火山が噴火し、鹿（ユク〜ユブ yuk〜yup）が羅臼の方へたくさん流れてきたことがあったそうだ。鹿は一列に数珠のようになって先に行くものの毛をくわえて渡って来るそうだ。先頭の鹿は疲れたら後につくそうだ。

川の中島が大水に見舞われそうになったとき、そこに住んでいたネズミが蛇のように連なって岸へ逃げるのを見たことがある。

昭和30年代のことだが、鹿が300頭も富良野の方から渡ってきた。私は「近いうちにどこかの山が噴火するに違いない」と人にも話していた。すると3日後に十勝岳が噴火した。

（十勝）三股にクマが40頭集ったことがある。それは有珠山が噴火した3日後のことであった。東へ東へと逃げてきたのだ。噴火がおさまったら、再びいなくなった。

[瀨瀬一雄氏]